

2026年3月期 第3四半期 決算説明会



SERENDIP
HOLDINGS

セレンディップ・ホールディングス株式会社
証券コード 7318

2026年2月16日



Index

1. 決算概要
2. トピックス
3. Appendix

【2026年3月期 第3四半期】連結業績サマリ

- 今期7月にM&Aしたサーテックカリヤの業績を第3四半期から取り込み、すべての項目で過去最高を更新
- 営業利益・経常利益は前年同期比200%超と大幅増益を達成

売上高	過去最高	営業利益	過去最高	経常利益	過去最高
35,338 百万円		1,640 百万円		1,710 百万円	
前年同期比 +128.6pt		前年同期比 +235.8pt		前年同期比 +270.2pt	
前年同期 15,458百万円		前年同期 488百万円		前年同期 462百万円	
親会社株主に帰属する当期純利益	過去最高	調整後EBITDA※	過去最高	M&A実行件数(累計)	
3,890 百万円		3,433 百万円		1 件	
前年同期比 +56.1pt		前年同期比 +111.7pt		前年同期 4件	
前年同期 2,493百万円		前年同期 1,622百万円			

※調整後EBITDA:営業利益+のれん償却費+減価償却費+一過性の新規M&A関連費用

通期予測に対する進捗およびM&A関連費用を除いた実力値

- ・通期予測は順調に進捗
- ・新規M&Aがグループ全体の利益率向上に寄与

単位(百万円)	通期予測に対する進捗			M&A関連費用除く実力値			M&Aに伴う一過性費用		
	通期予測	3Q実績	進捗率	2025/3期 3Q	2026/3期 3Q	前年同期比	2025/3期 3Q	2026/3期 3Q	備考
売上高	50,000	35,338	70.7%	15,458	35,338	+128.6%			
調整後EBITDA	—		—	1,622	3,308	+104.0%			
営業利益	2,250	1,641	72.9%	719	1,937	+169.3%	-230	-296	M&A仲介・DD費用
(営業利益率)	(4.5%)	(4.6%)		(4.7%)	(5.5%)				
経常利益	2,180	1,711	78.5%	843	2,113	+150.5%	-151	-106	ファイナンス手数料等
当期純利益(参考)※	3,900	3,891	99.8%	489	1,446	+195.8%	2,385	2,847	負ののれん発生益

百万円未満を四捨五入しております。

※当期純利益は、一過性の費用を法定実行税率で割り戻して算出しているため(参考)とさせていただいております。

セグメント売上高の状況および連結売上高増減分析

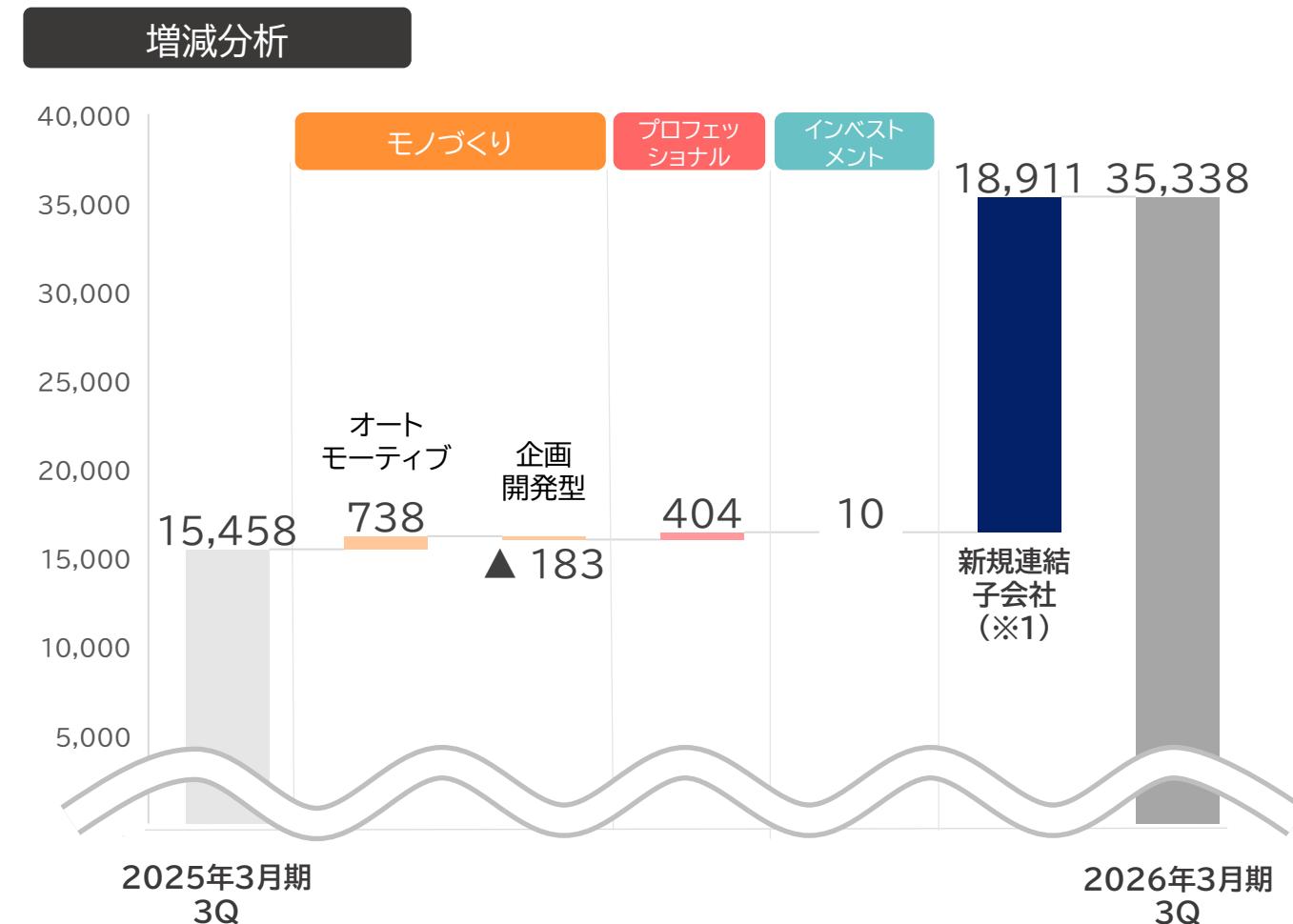
- エクセルおよびサーテックカリヤ(新規M&A)により非連続的な成長を達成
- DX・RX事業において案件の大型化がプロフェッショナルソリューション事業の伸長に貢献

(単位:百万円)	2025年3月期 3Q	2026年3月期 3Q	前年同期比
モノづくり事業	14,343	33,824	+135.8%
オートモーティブサプライヤー	11,446	31,038	+171.2%
ユニクレア(佐藤工業×イワヰ)	3,736	8,384	+124.4%
三井屋工業	7,711	8,236	+6.8%
エクセル・グループ	—	8,778	—
サーテックカリヤ	—	5,638	—
企画開発型モノづくり	2,896	2,785	-3.8%
天竜精機	732	705	-3.7%
アペックス(アペックス×トライシス)	1,776	1,713	-3.5%
レディーバード	390	379	-2.8%
プロフェッショナル・ソリューション事業	1,408	1,976	+40.4%
セレンディップ・ホールディングス	829	1,236	+49.1%
セレンディップ・テクノロジーズ	666	719	+8.0%
セレンディップ・ロボクロス	22	165	+650.0%
インベストメント事業	177	133	-24.3%
セレンディップ・ファイナンシャルサービス	177	133	-24.3%

*個別業績については内部売上高又は振替高を含んでいますため、各個別業績の合計とセグメント別の数値は一致いたしません。

*ユニクレアの2025年3月期3Qの数値にイワヰは含まれておりません。

*アペックスの2025年3月期3Qの数値にトライシスは含まれておりません。

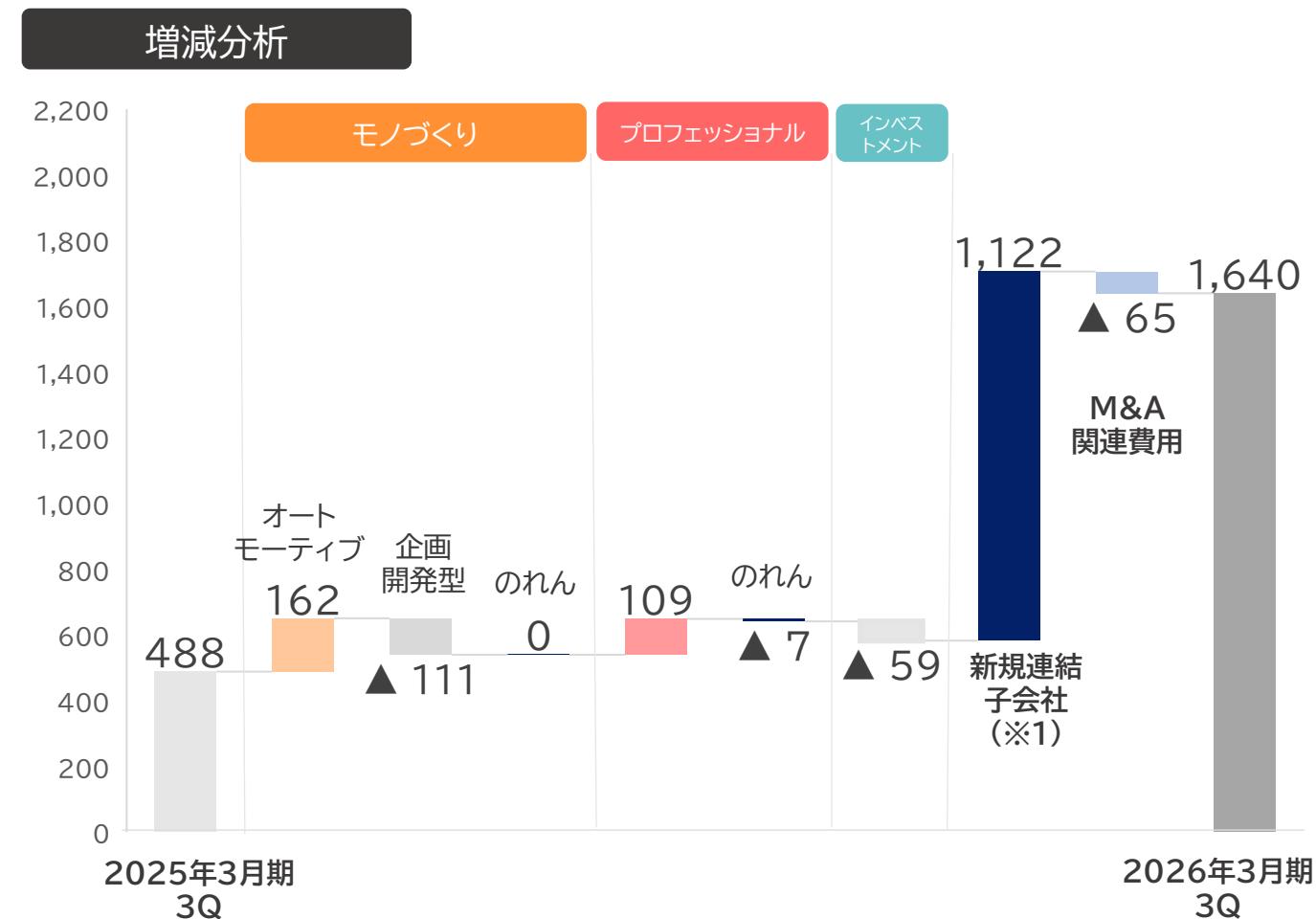


※1 新規連結子会社は、イワヰ・トライシス・エクセル・グループ・サーテックカリヤを指します。

セグメント利益の状況および連結営業利益増減分析

- モノづくり事業:オートモーティブサプライヤー各社で国内・海外とも好調で増益
- サーテックカリヤ:一過性のM&A関連費用(296百万円)を3Q利益(305百万円)で吸収
- プロフェッショナルソリューション事業:コンサルティングは、增收により黒字化フェーズへ

(単位:百万円)	2025年3月 3Q	2026年3月期 3Q	前年同期比
モノづくり事業	469	1,554	+231.1%
オートモーティブサプライヤー	269	1,474	+448.0%
ユニクレア(佐藤工業×イワヰ)	8	121	+1412.5%
三井屋工業	430	470	+9.3%
エクセル・グループ	—	857	—
サーテックカリヤ	—	8	—
企画開発型モノづくり	199	80	-59.8%
天竜精機	-138	-99	—
アペックス(アペックス×トライシス)	352	209	-40.6%
レディーバード	57	-2	—
プロフェッショナル・ソリューション事業	-31	94	—
セレンディップ・ホールディングス	-11	68	—
セレンディップ・テクノロジーズ	24	39	+62.5%
セレンディップ・ロボクロス	-5	3	—
インベストメント事業	50	-8	—
セレンディップ・フィナンシャルサービス	52	-8	—



*個別業績については内部売上高又は振替高を含んでいるため、各個別業績の合計とセグメント別の数値は一致いたしません。

*ユニクレアの2025年3月期3Qの数値にイワヰは含まれておりません。

*アペックスの2025年3月期3Qの数値にトライシスは含まれておりません。

*サーテックカリヤのM&A費用はサーテックカリヤ(オートモーティブサプライヤー)に含めております。

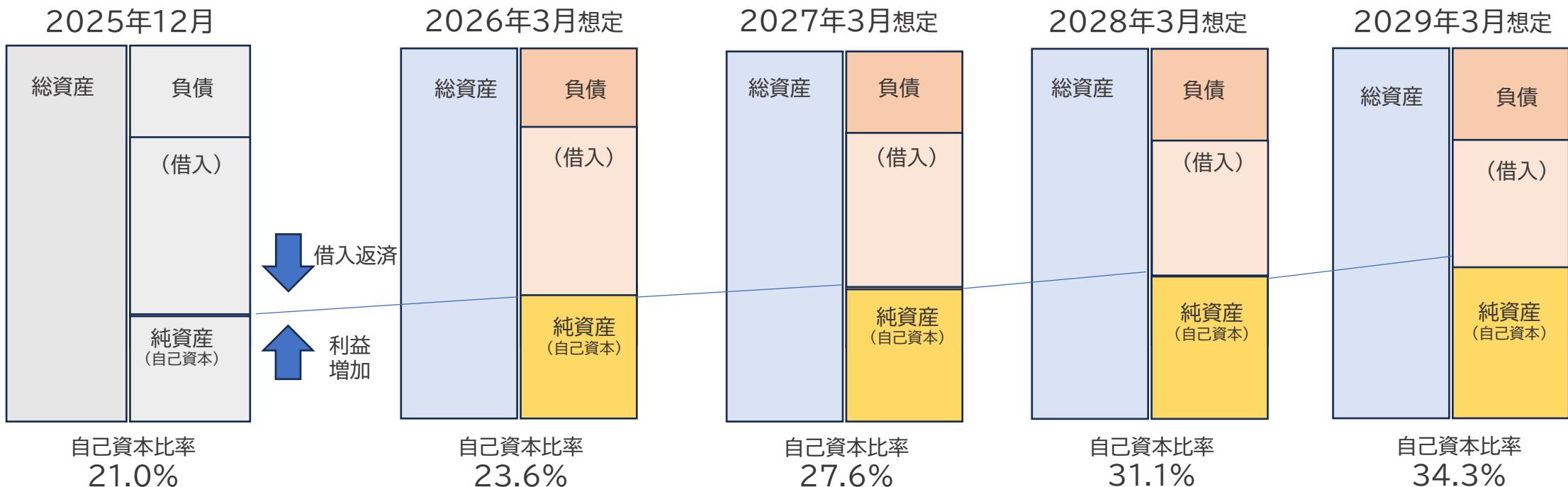
連結貸借対照表サマリ

- ・ サーテックカリヤのB/Sを2Qで取り込み、資産・負債は拡大
- ・ 純資産は継続的に増加し、自己資本比率も利益の積み上げにより改善

(単位:百万円)	2025年3月期末	2026年3月期		前年同期比
		2Q	3Q	
総資産	32,241	55,051	59,594	+27,352
流動資産	16,193	27,065	31,383	+15,189
固定資産	16,047	27,985	28,210	+12,163
負債	24,109	40,819	43,836	+19,727
流動負債	13,099	23,153	26,878	+13,778
固定負債	11,010	17,666	16,958	+5,948
純資産	8,132	14,231	15,757	+7,625
自己資本比率	24.8%	20.1% 0.9pt増	21.0%	-3.8pt

自己資本比率の見通し

- ・ M&Aで一時的に自己資本比率が低下するも、安定した利益及び借入返済により増加する
- ・ 借入のうちメザニンは“資本性”を有するため、財務負担を抑えて成長投資を実現



※「借入返済」は、既存借入の返済・設備投資計画に沿った借入の実行を加味しております。

※「その他有価証券評価差額金」は、2025年12月末時点の数値を据え置いた額を使用しております。

※「利益增加」は、新規M&Aを加味せず、既存グループ会社が稼ぐ利益を保守的に横引きし、税率を35%、一部被支配株主分を考慮して算出しております。



Index

1. 決算概要
2. トピックス
3. Appendix

M&Aで成長する同業他社と比較した当社の独自性

- ・ 製造業M&Aでありながら、海外まで展開し、**プロ経営者が深くPMIに関与**することで価値創出を再現

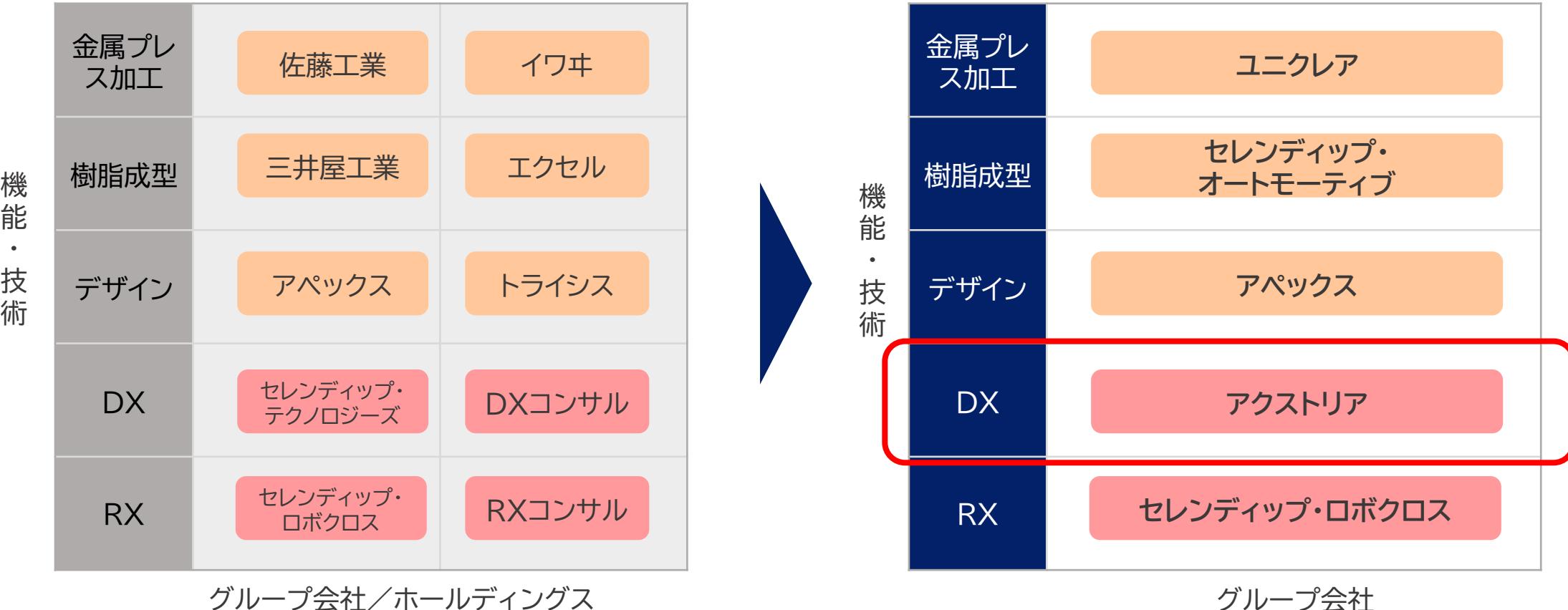
項目	当社	A社	B社
M&A対象	製造業	製造業	サービス業 (単一業界型)
海外展開	○ 海外含む	✗ 国内中心	○ 海外含む
ロールアップ型 PMI	○ グループ内統合	✗ 独立前提	○ 統合前提
成長を加速する PMI	○ 製造現場改善 (DX・RX)	✗ 経営管理主体	○ マニュアル・ 標準サービス
PMIによる 変革スピード	○ 標準化された 100日プラン	△	○ オペレーション 改善

当社事業モデルの独自性

- 難易度の高い海外展開に挑戦
- M&Aを単なる資産取得ではなく、“複合的PMI”で価値創出まで実行
- スタンダード化されたPMIで
再現性と実行スピードを担保

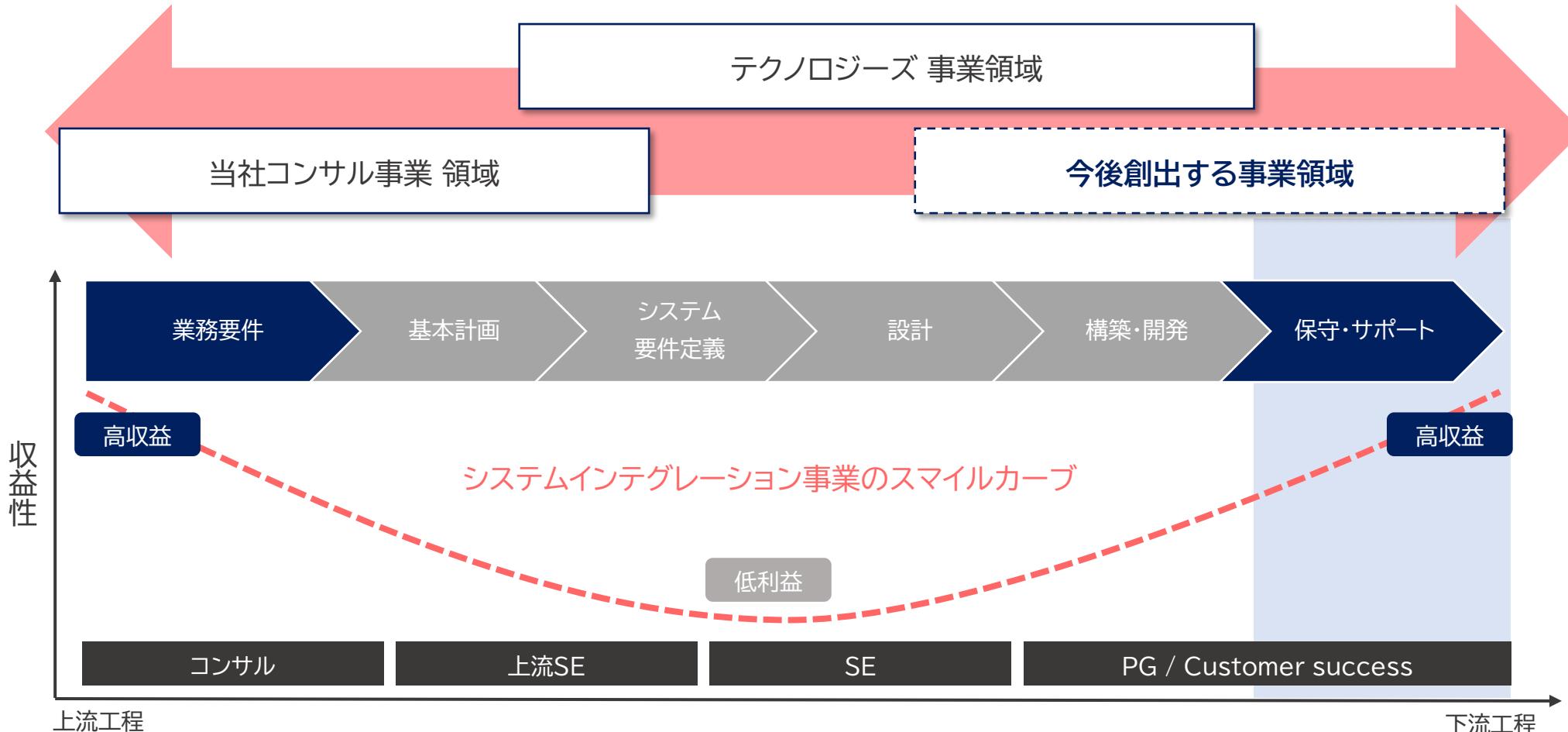
ホールアップ型PMI | 機能・技術を軸としたグループ会社の実行

- 事業シナジーを最大発揮するためグループ内で合併を基本とする組織統合を進行



合併によるグループ再編で価値創出の基盤を構築

- 当社コンサル事業とテクノロジーズの事業領域を融合することで上流から実装まで一気通貫で価値提供が可能に
- 今後創出する事業領域への進出で、高収益化を実現する



サーテックカリヤPMIの進捗 | 改善活動の全社展開による収益性向上へ

- PMIのスタンダード化により、収益改善を生み出す“経営基盤”を早期に構築

PMI全体進捗状況



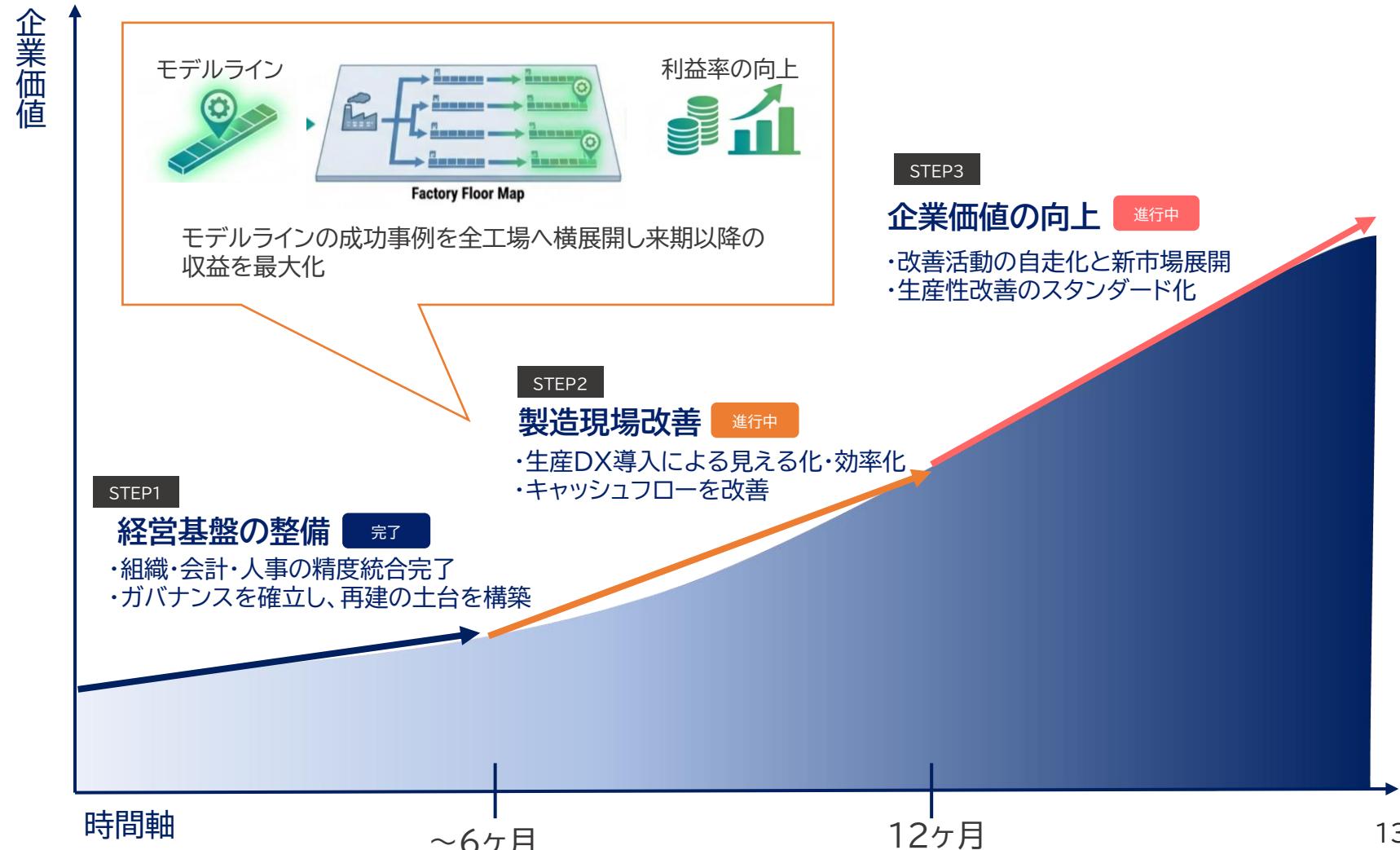
完了 70%

進行中 25%

保留・未着手 5%

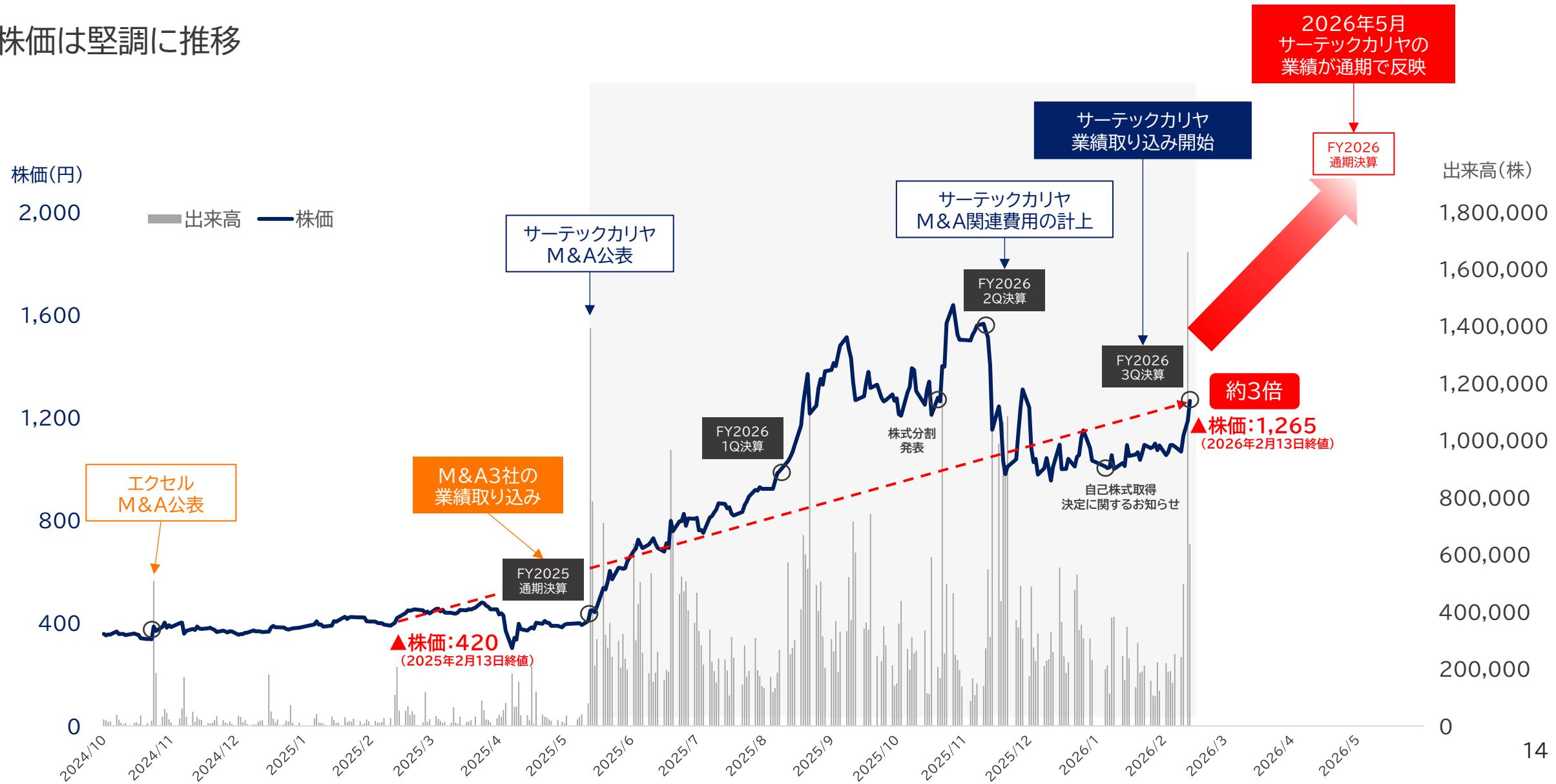
主要完了項目:

- ・経営基盤(規定・会計・人事制度の統一)
- ・意思決定の高速化と管理制度の向上
- ・現場改善文化の再活性化



株価推移 | 通期ベースで業績が反映されるタイミング

- 株価は堅調に推移

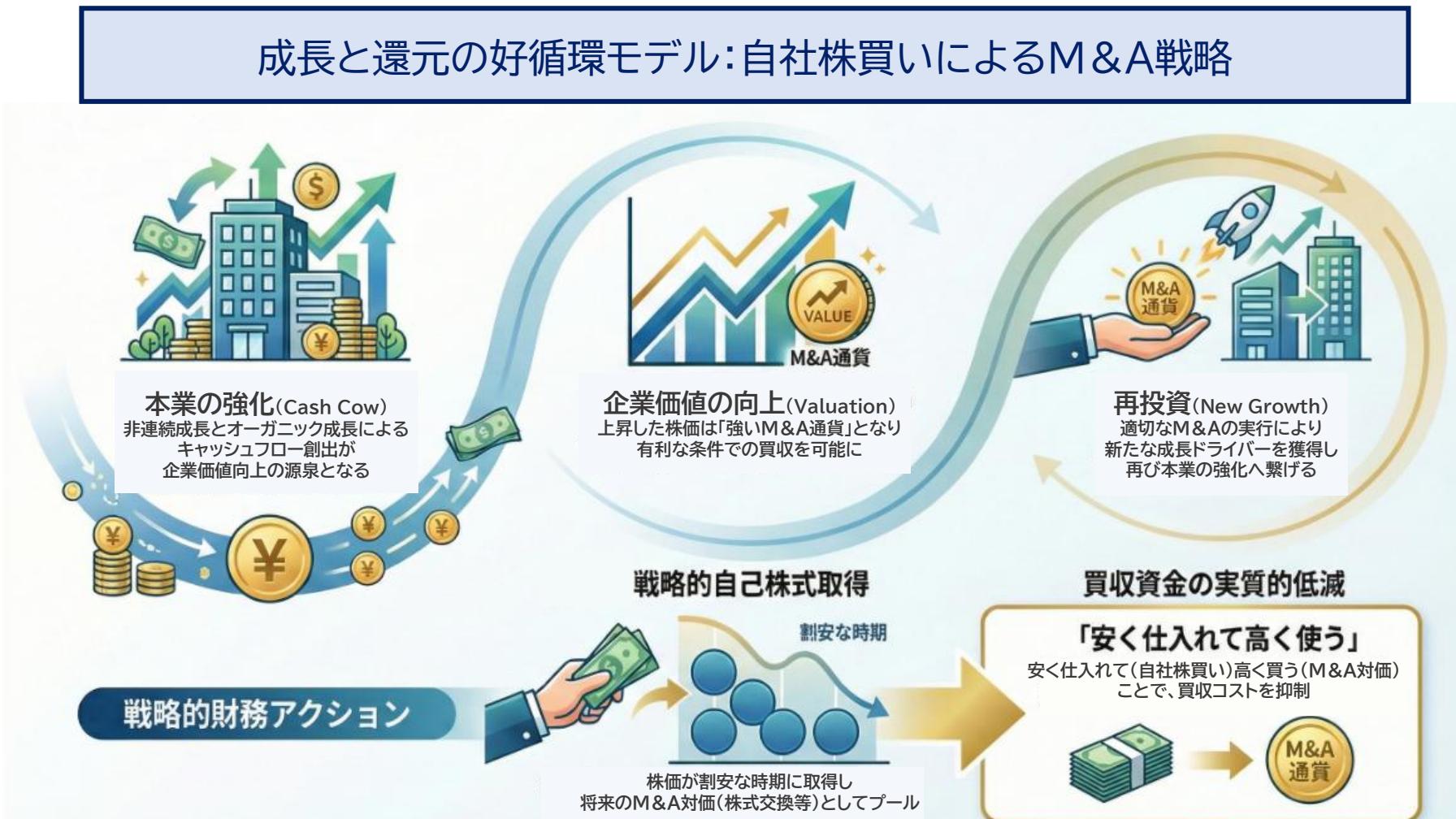


※本資料の株価推移は、2025年10月21日に発表した株式分割を反映し、過去分も分割後基準で換算しています。

Copyright © SERENDIP HOLDINGS Co., Ltd. 2025 All rights reserved.

自己株式取得の目的 | M&A資金への活用

- 将来のM&Aにおける対価として活用することを見据え、自己株式を取得
- 安定したキャッシュ創出力の上に、戦略的M&Aと設備投資をバランスさせ、企業価値の継続的向上を図る



IRイベント情報

イベントでは、代表取締役社長兼CEOの竹内が登壇し、事業説明と成長戦略についてお話しします。

投資家の皆様に当社への理解を深めていただく機会となりますので、ぜひご参加ください。

日 時	時 間	イ ベ ン ト 名	主 催	開 催 形 式	開 催 場 所
2026年2月22日(日)	16:00～17:00	個人投資家サミット	IR Robotics	会場+オンライン	東京
2026年2月27日(金)	14:30～15:20	個人投資家向けIRセミナー	日本証券新聞	会場	福岡
2026年3月18日(水)	19:00～20:00	個人投資家向けオンライン会社説明	SBI証券	オンライン	—
2026年3月22日(日)	15:50～16:50	個人投資家向けIR説明会	湘南投資勉強会	会場+オンライン	湘南

SNS公式アカウントのご紹介

X(旧Twitter)、YouTube、noteを中心に、タイムリーで分かりやすい情報発信を強化しています。



アカウントID:@SERENDIP_HD

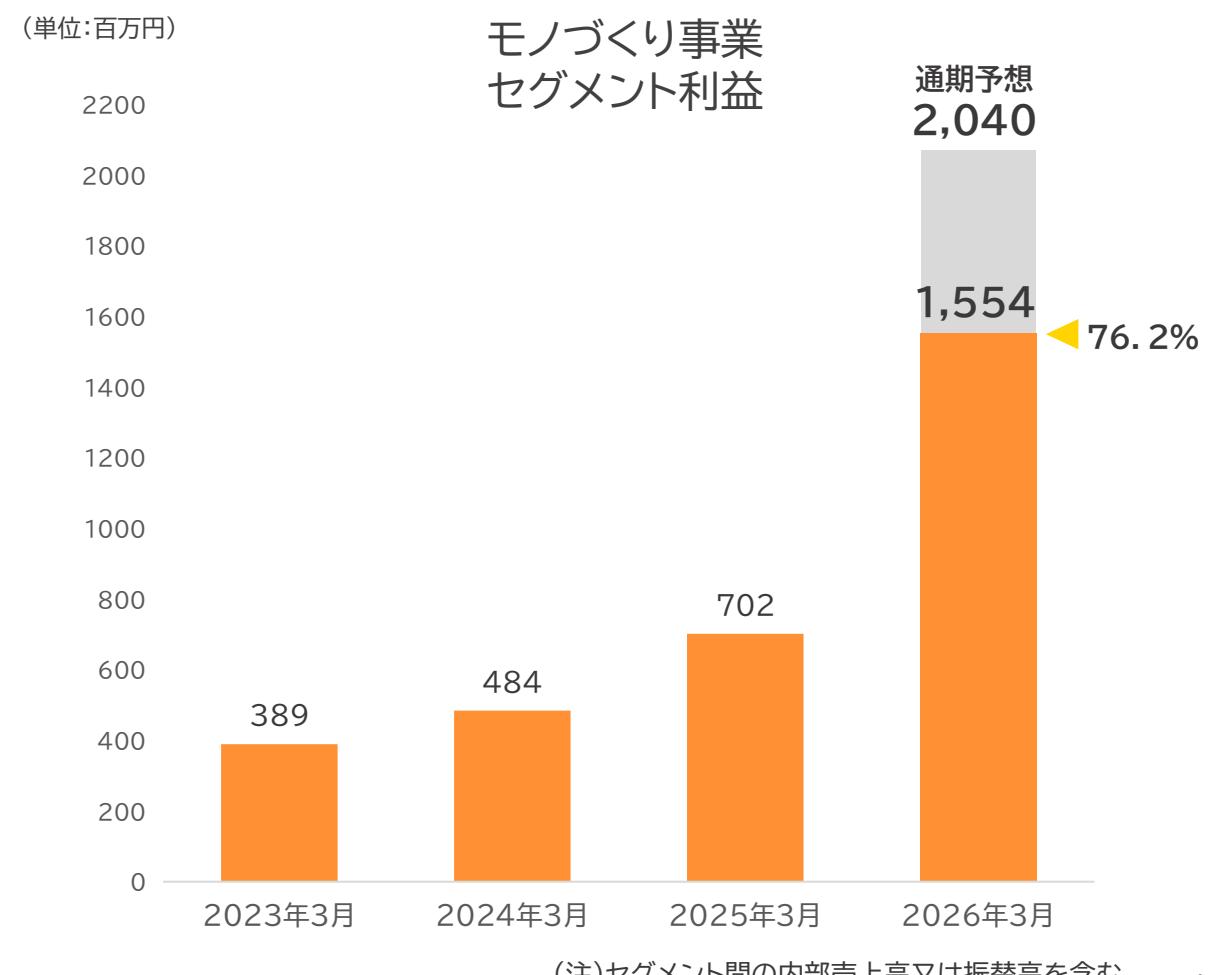
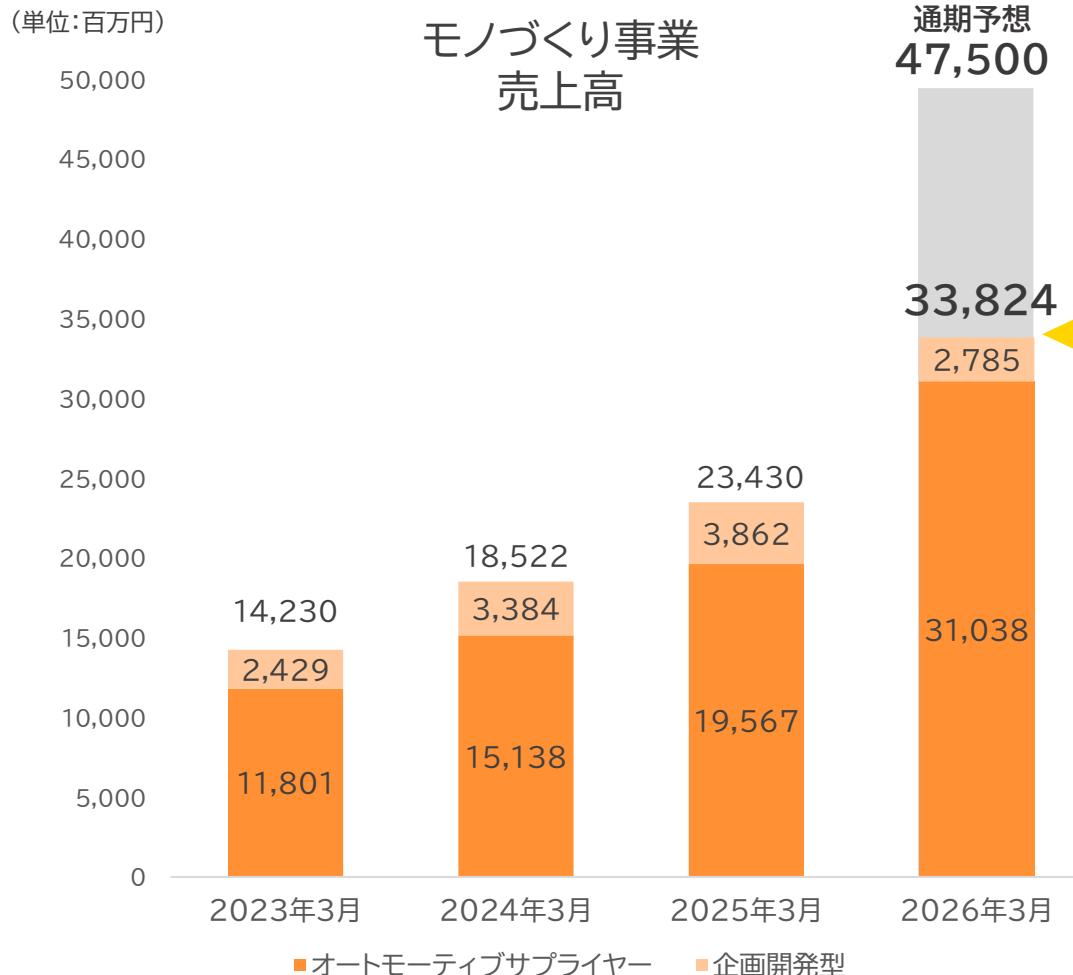


Index

1. 決算概要
2. トピックス
3. Appendix

【モノづくり事業】業績推移と進捗状況 ※通期予想は、通期業績予想修正時

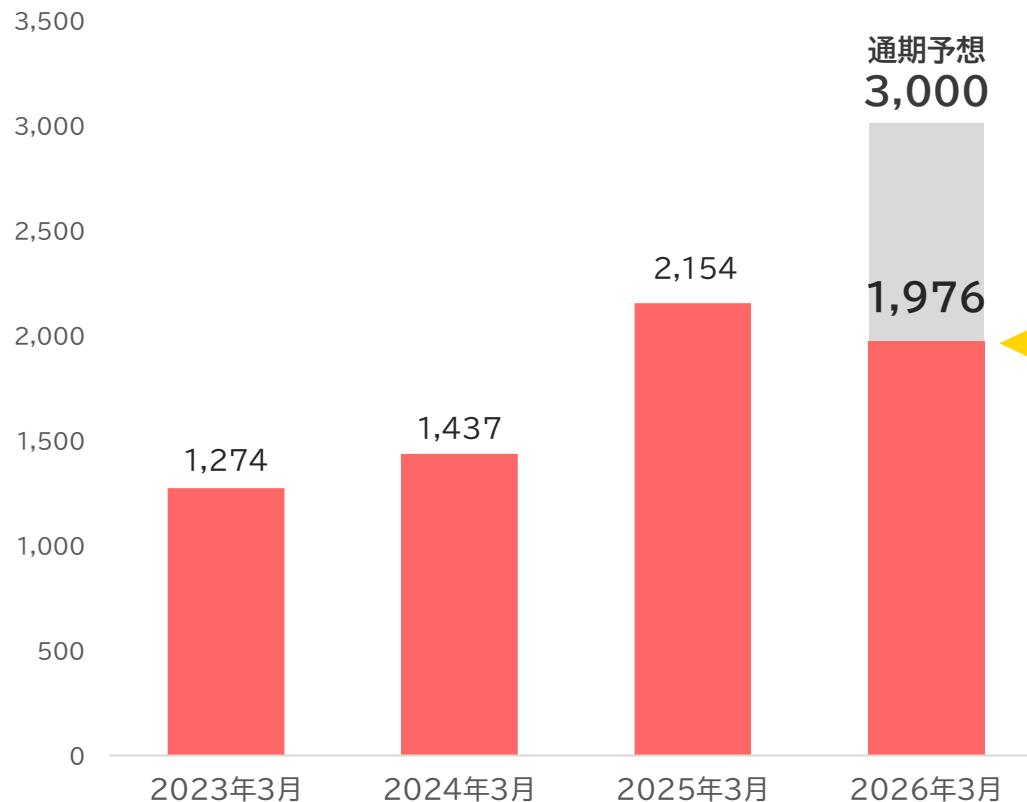
- オートモーティブサプライヤーにおいて、米国の通商政策の影響は一部残るもの、自動車メーカーの国内生産は引き続き堅調に推移し、売上高は計画どおり推移
- サーテックカリヤの業績は3Qより連結に取り込み開始



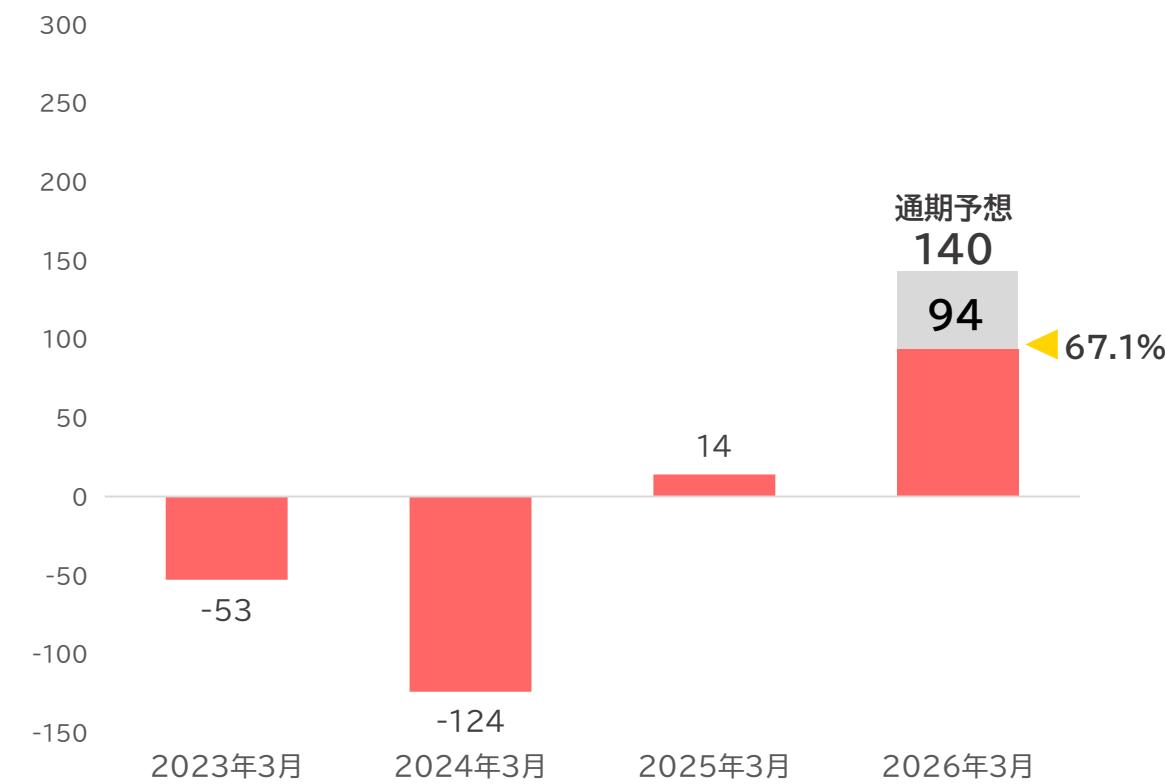
【プロフェッショナル・ソリューション事業】業績推移と進捗状況 ※通期予想は、通期業績予想修正時

- 基幹システムの再構築需要等により、ITコンサルティングの旺盛な需要に伴い增收増益
- RX(ロボット・トランスフォーメーション)は、受注は順調に積み上がっている

(単位:百万円) プロフェッショナル・ソリューション事業 売上高



(単位:百万円) プロフェッショナル・ソリューション事業 セグメント利益



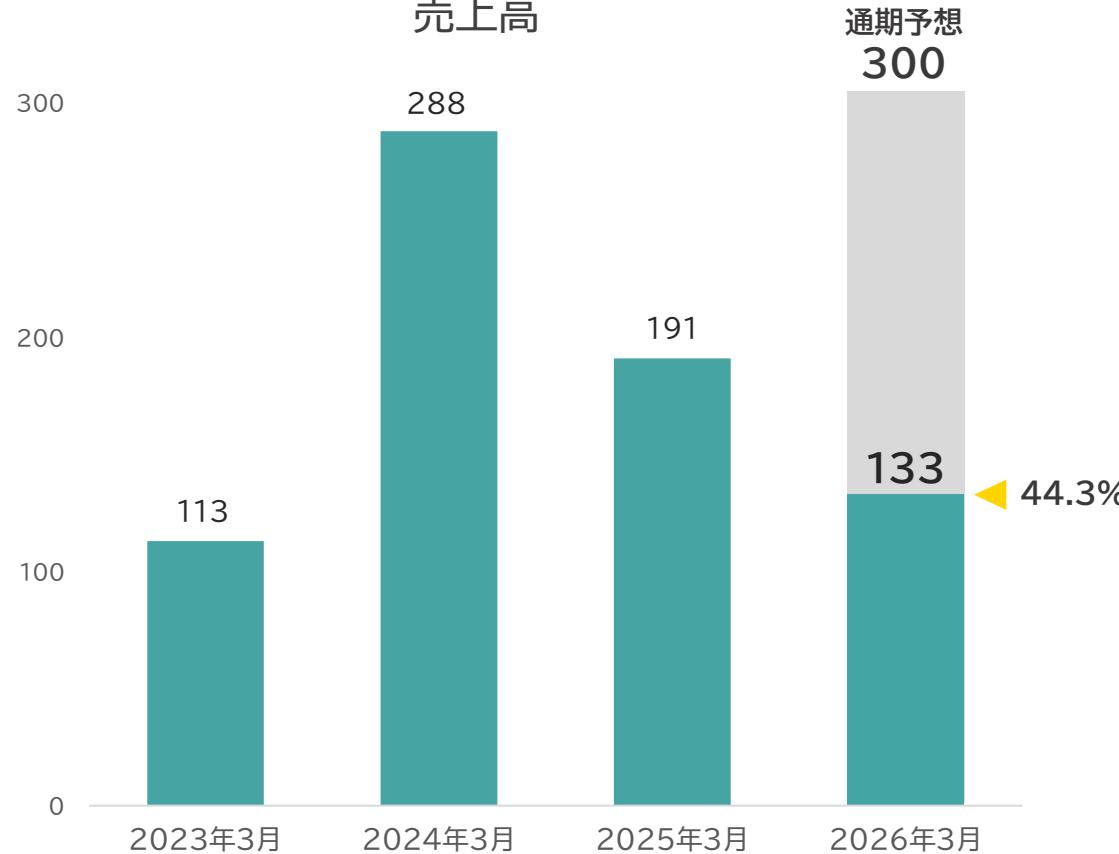
(注)セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

【インベストメント事業】業績推移と進捗状況 ※通期予想は、通期業績予想修正時

- 大型案件のスリップ見込む

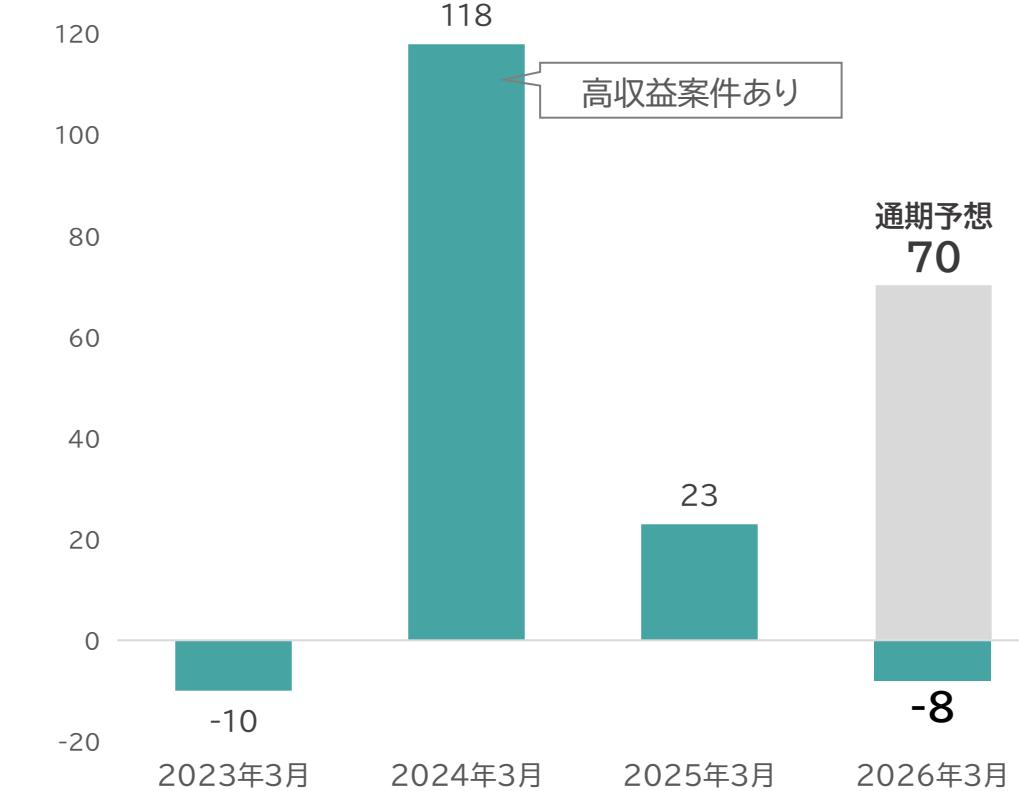
(単位:百万円)

インベストメント事業
売上高



(単位:百万円)

インベストメント事業
セグメント利益



会社概要



社名	セレンディップ・ホールディングス株式会社 SERENDIP HOLDINGS Co., Ltd.
代表者	代表取締役社長兼CEO 竹内 在
本社所在地	愛知県名古屋市中区錦一丁目5番11号 名古屋伊藤忠ビル
設立	2006年8月
資本金	11億4273万円(2025年3月末現在)
株式公開市場	東京証券取引所 グロース市場 証券コード:7318
従業員数 <small>(正社員・契約社員・パート)</small>	単体 65名(2025年12月末現在) グループ全体 3,754名(2025年12月末現在)
決算月	3月

代表者の紹介



代表取締役社長兼CEO
竹内 在 | Ari Takeuchi

幼少期より、曾祖父である竹内明太郎(コマツ創業者)の影響を受け、経営者としての道を志す。

- 1994年 ニフティ株式会社
- 1999年 株式会社東海総合研究所
(現 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)
- 2001年 SAPジャパン株式会社
- 2006年 日本オラクル株式会社
- 2011年 株式会社シンプレクス・コンサルティング
(現 シンプレクス株式会社)
- 2014年 当社代表取締役社長
- 2023年 当社代表取締役社長兼CEO

当社のMission

**事業承継型M&Aにより
日本の中堅・中小製造業を世界に誇れる100年企業へ**



竹内 明太郎

富国工業基

『良品に国境なし
工業こそ富国の基』

1. 経営合理化と近代化

26歳の時に父から、芳谷(よしのたに)炭鉱の経営を一任。
徹底した技術革新と合理化を行い、極力内製化しコストダウンを図った。
当時の最新技術を導入し、近代的生産体制の確立した。

2. 経営多角化・M&A

鉱業・炭鉱だけでなく、鋳造、鍛造、金型など周辺事業も手掛けた。その次は機械工業への進出。
その一つが唐津鉄工所。工作機械の開発製造を手掛ける。
もう一つが鉱山用機械製作の小松鉄工所。全国の炭坑や鉱山を次々と買収し、事業拡大を図った。
快進社(DUTSUN)へ出資し、日本の自動車業界の幕開けを作った。

3. 海外・研究開発

欧州で鉱山、機械、造船等の視察と、当時開催中のパリ万博をも視察し、そこで技術の遅れを痛感した。
帰国後、多くの事業を立ち上げ、機械など国産化を行う。

4. 地方創生

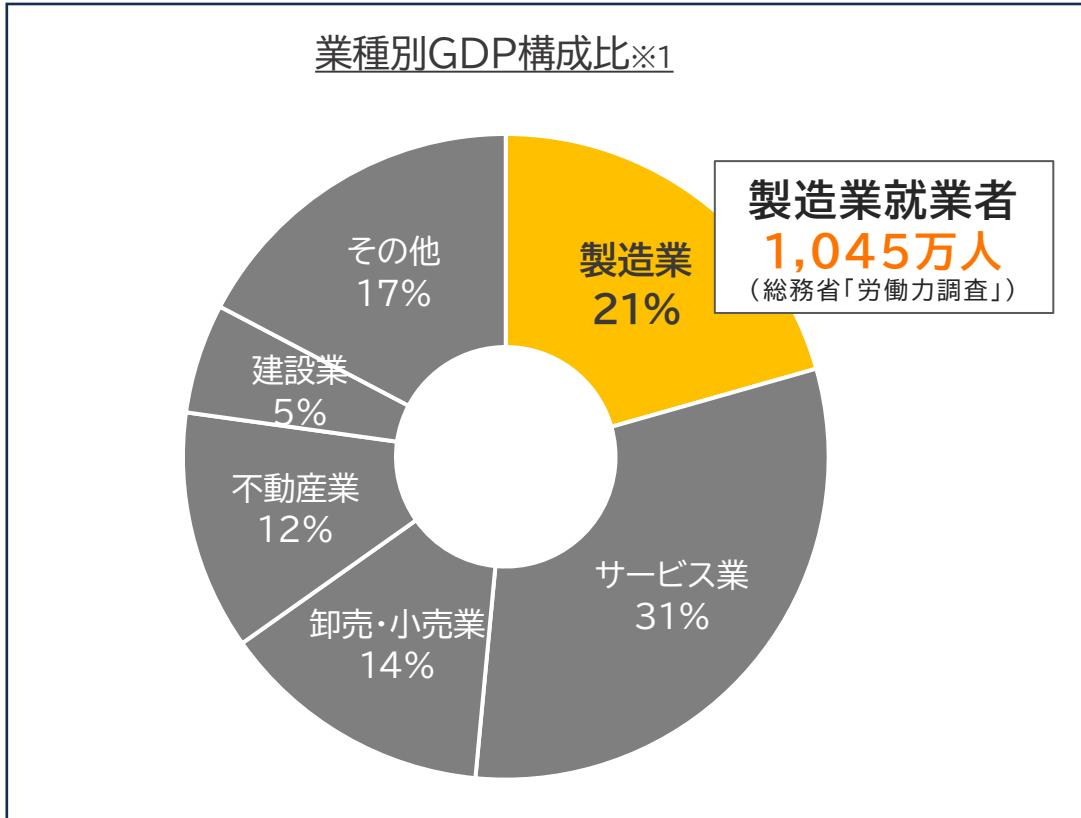
唐津、小松鉄工所にしても創設地から動かなかった。その理由として、
1. その地方に受けた恩に報いる、2. 移転すると地方の衰退につながる、3. 地方は実直な若者が多い、4. 国家的見地より、工業の地方分散がよい、5. 良品に国境なし、造る場所は問題にはならない

5. 教育・人づくり

「人創りこそ企業の礎、また国を興す礎でもある」高知工業高校、早稲田大学理工学部へヒト、モノ、カネを寄贈

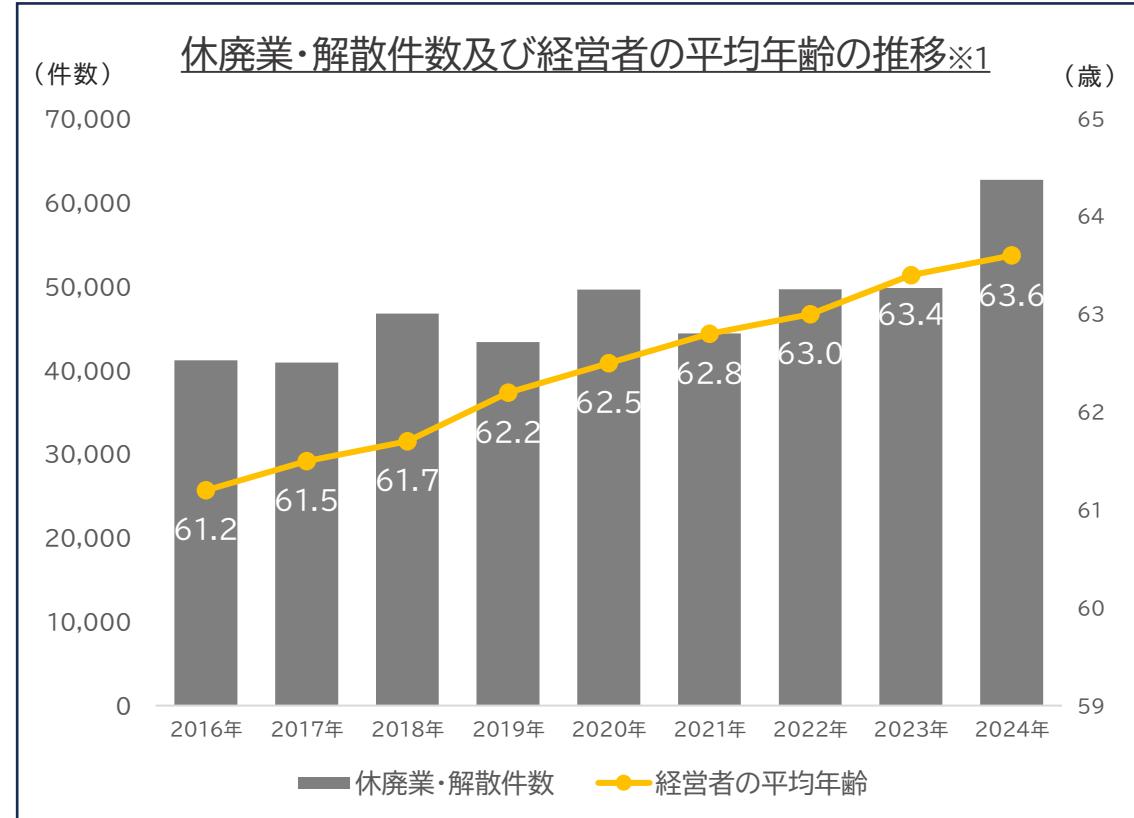
日本の中堅・中小製造業の危機

1. 製造業は、日本のGDPの約2割を占め1,045万人が就業する、日本経済を支える中心的な産業
2. 経営者の高齢化、後継者不在により「休廃業・解散」を選択する件数が増加傾向



※1 内閣府「2021年度(令和3年度)国民経済計算年次推計」より当社作成

依然重要な日本の製造業

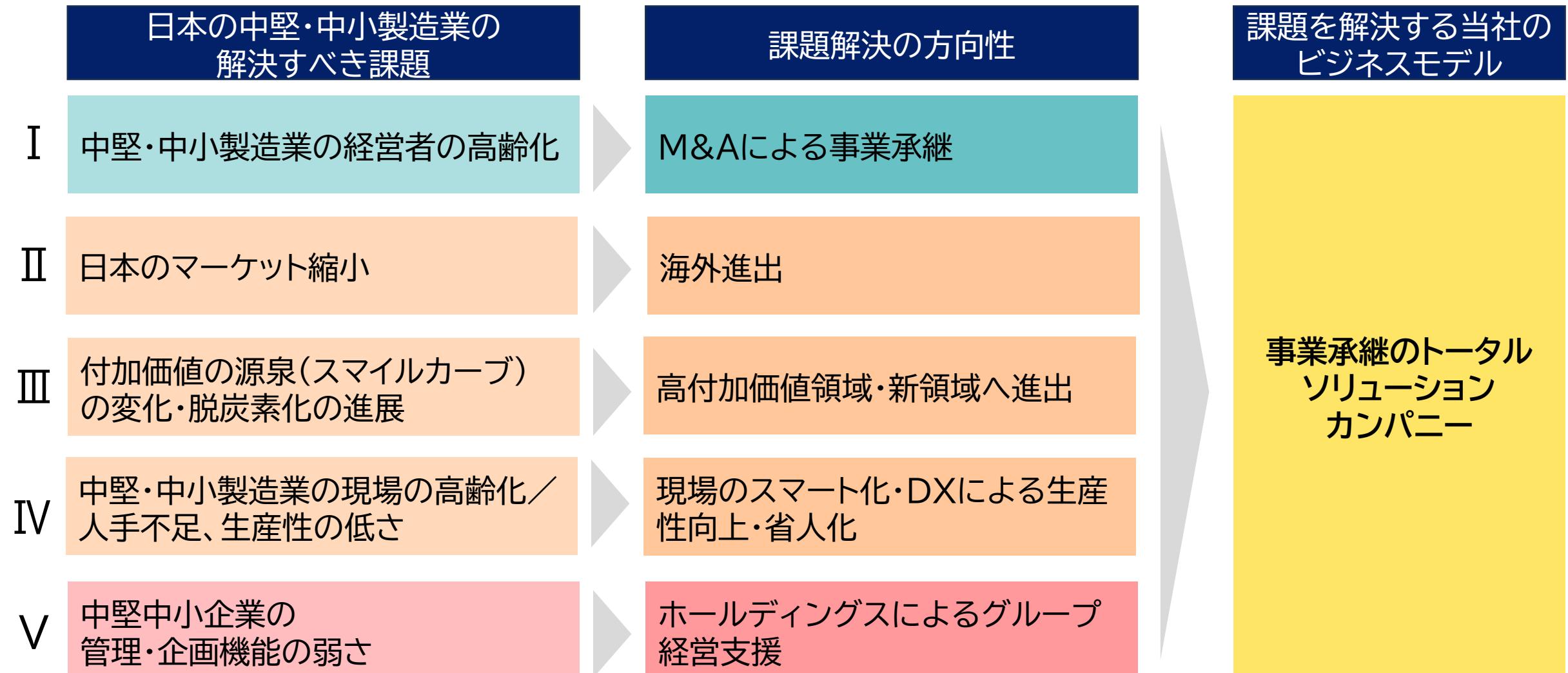


※1 (株)東京商工リサーチ「休廃業・解散企業」動向調査、「全国社長の年齢調査」(2024年)

事業承継M&Aへの圧倒的需要

解決すべき5つの課題と課題を解決する当社のビジネスモデル

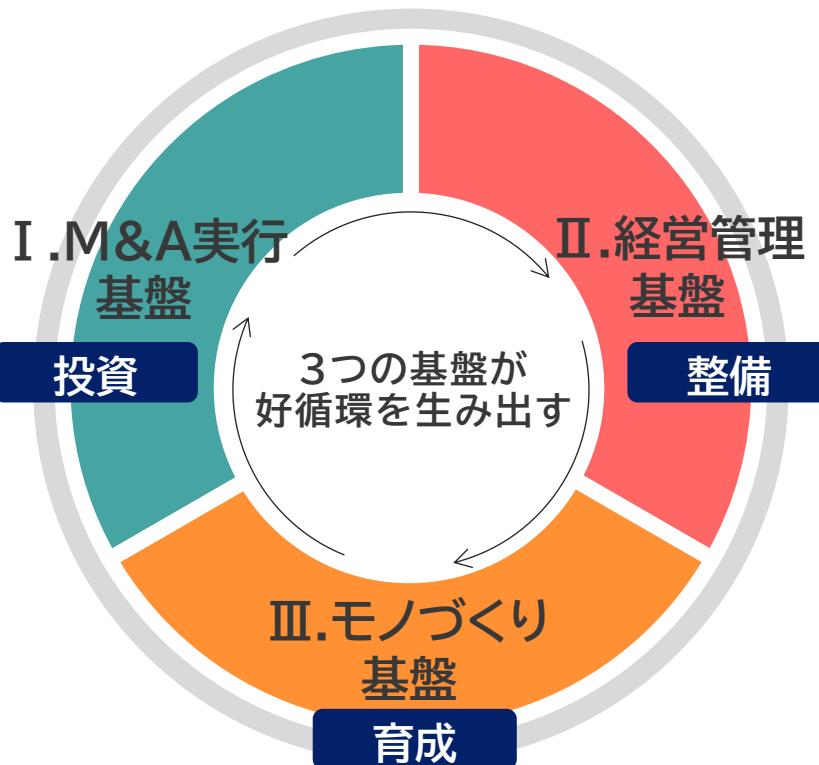
- 当社は、日本の中堅・中小製造業の課題を解決する事業承継のトータルソリューションカンパニー



当社は事業承継を総合的に解決するトータル・ソリューション・カンパニー

日本の中堅・中小企業が直面する課題解決に向けて、独自の「モノづくり事業承継プラットフォーム」を構築

モノづくり事業承継プラットフォーム



モノづくり事業承継における3つの基盤

I .M&A実行基盤 **投資**

「セレンディップ投資ポートフォリオ(SIP)」の方針に基づき
M&Aプロセス全体(M&Aチャネル開拓、M&A戦略立案/実行)の遂行

II.経営管理基盤 **整備**

プロ経営者によるチーム経営、標準化されたマネジメントツール、業務シェアードによる
グループ一体となった「セレンディップ人材育成スタンダード(SHS)」を確立

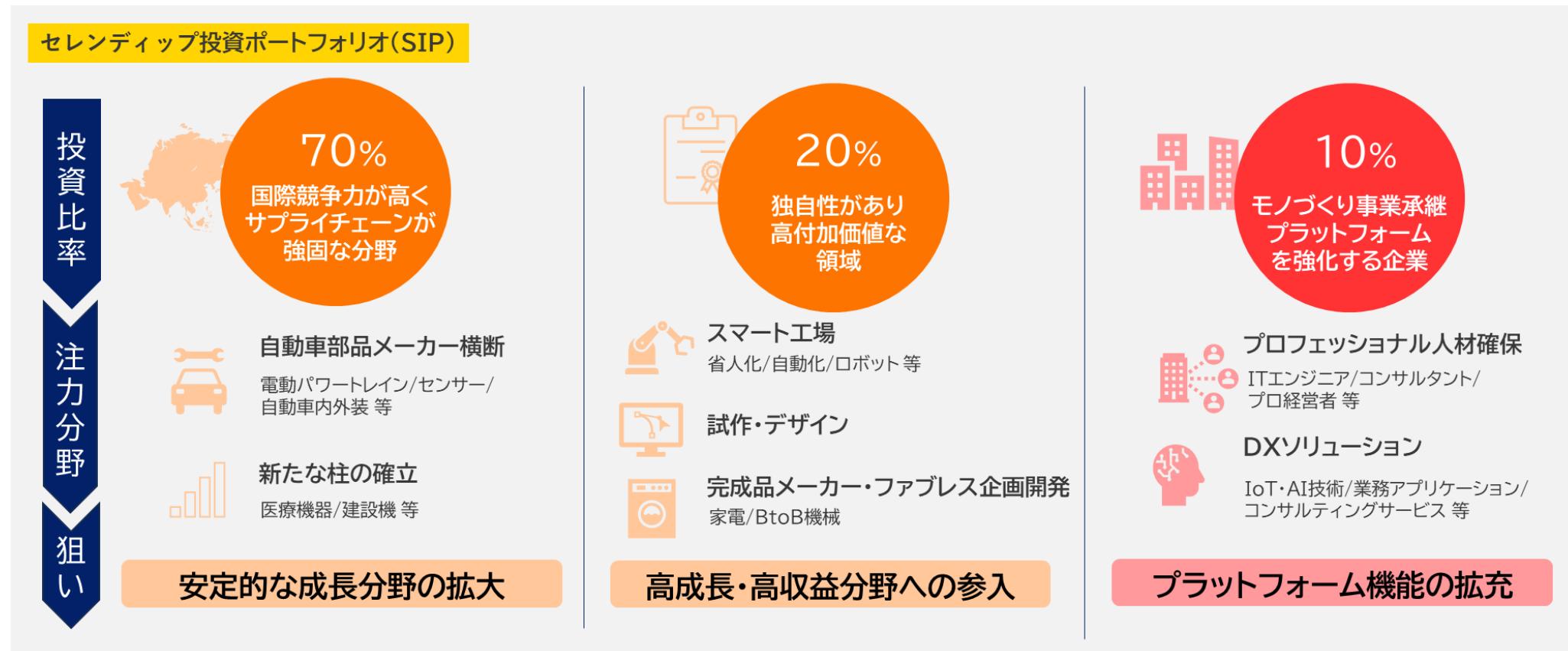
III.モノづくり基盤 **育成**

標準化された「セレンディップ改善スタンダード(SKS)」を活用し、製造現場の変革を
推進、R&Dの強化、グローバル化を図る

フューチャーファクトリー構想

M&A基本方針 | セレンディップ投資ポートフォリオ(SIP)

- ・ 安定的な収益獲得分野と、変動性は高いが成長率・利益率の高い分野へ、SIPに従って継続して投資実行
- ・ 成長のためのR&D・設備投資を織り込んだ適切なバリュエーションに基づく投資判断によりM&Aを実行



グループ会社一覧

モノづくり事業

国際競争力が高く、サプライチェーンが強固な分野

金属プレス加工



自動車
精密部品製造

※佐藤工業株式会社と株式会社イワヰは、2025年4月1日をもって合併し、ユニックレア株式会社としてスタートいたしました。

樹脂成型

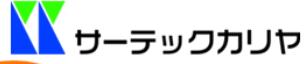


自動車
内外装部品製造



自動車部品ダクト等の
樹脂成型品の
開発・製造

めっき加工



自動車部品の
表面処理

グループ参画日
2025年7月

独自性があり高付加価値な領域

デザイン

Apex

Turning your ideas into reality.

開発段階における
試作品製作・デザイン

※株式会社トライシスは、2025年10月1日をもって株式会社アペックスへ合併しました。

企画開発



ファクトリーオートメーション
装置製造

ビューティーテック



業務用美容器開発・
製造・販売

プロフェッショナル・ソリューション事業

モノづくり事業承継プラットフォームを強化する企業



プロ経営者派遣、
コンサルティング



設計・開発・ITエンジニア
派遣、ソフトウェア開発



協働ロボット販売・
レンタル

インベストメント事業

投資やフィナンシャル・アドバイザリー



プリンシパル投資(自己資金投資)、
フィナンシャル・アドバイザリー、ファンド運営

モノづくり基盤 | 製造現場の変革スタンダード

- 当社の製造現場の変革は、3つのステップで実現
- 品質向上・生産効率向上・IoT活用による省人化によって得られたリソースをR&D(研究開発)に集中投下

見える化を徹底し、「データを見て、 FACTで判断する」製造現場に



事例 | 徹底した省人化で**生産性2倍**を実現

- 2025年4月 三井屋工業株式会社(本社:愛知県豊田市)の東北工場を増床

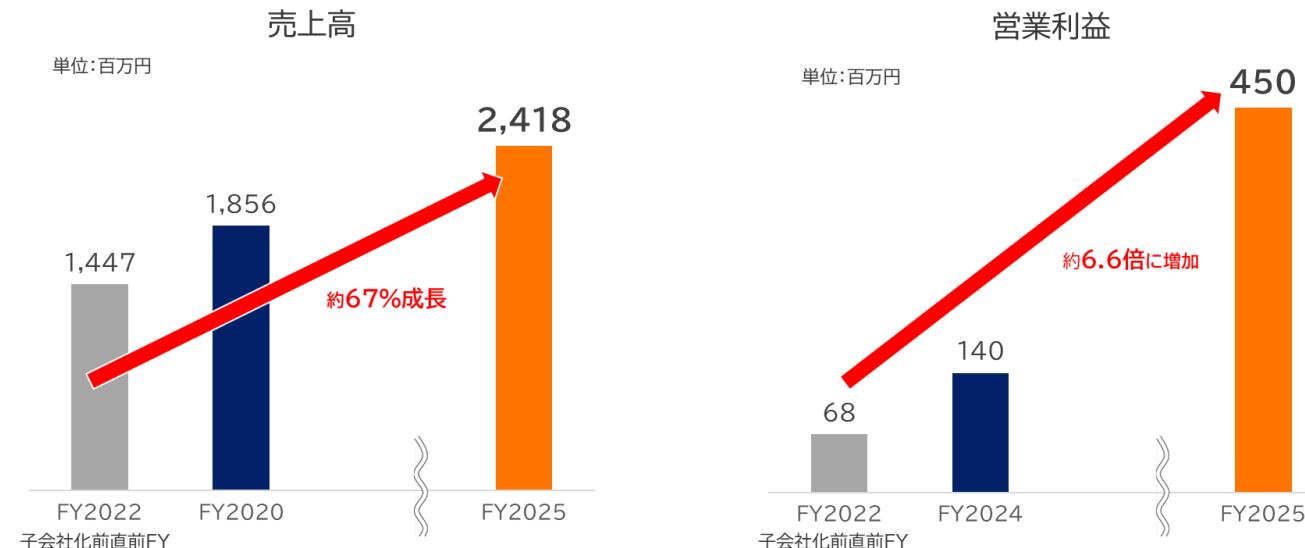
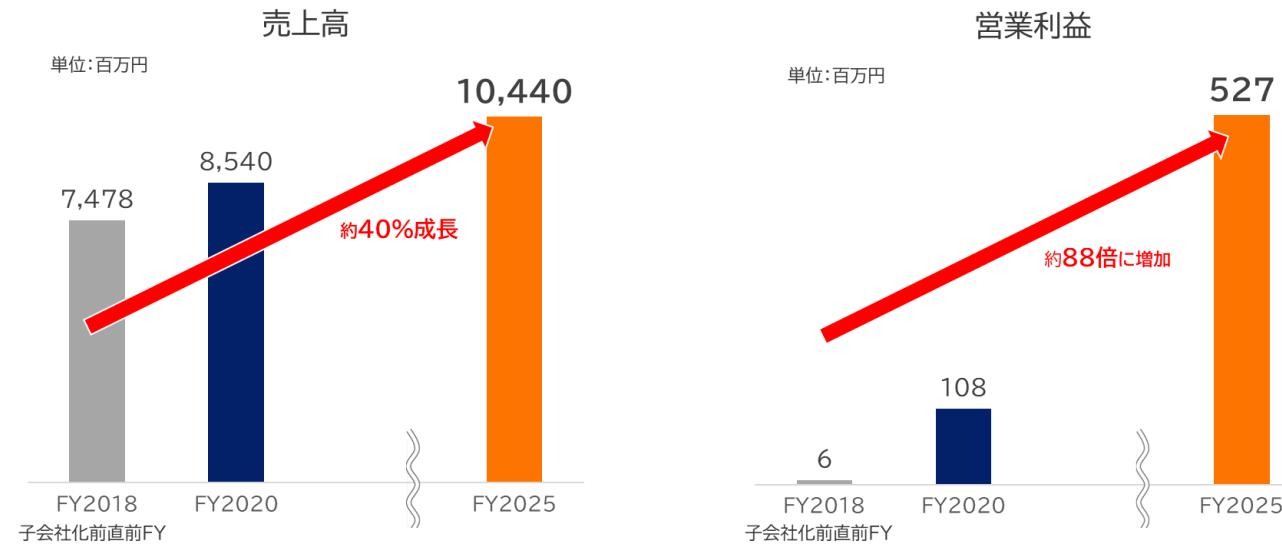
 三井屋工業 東北工場
環境保全推進賞知事賞受賞

- 労働生産性が、従来比100%向上
- 発生品質不具合が、従来比90%削減
- 生産設備の効率的な稼働により、
製品個当たり電力が、従来比40%改善
→CO2排出削減量 年間約595t

※2025年1月より東北工場で使用する電力を
全てCO2フリー電源へ切替し、これによる
CO2削減量が年間900tになる見通し



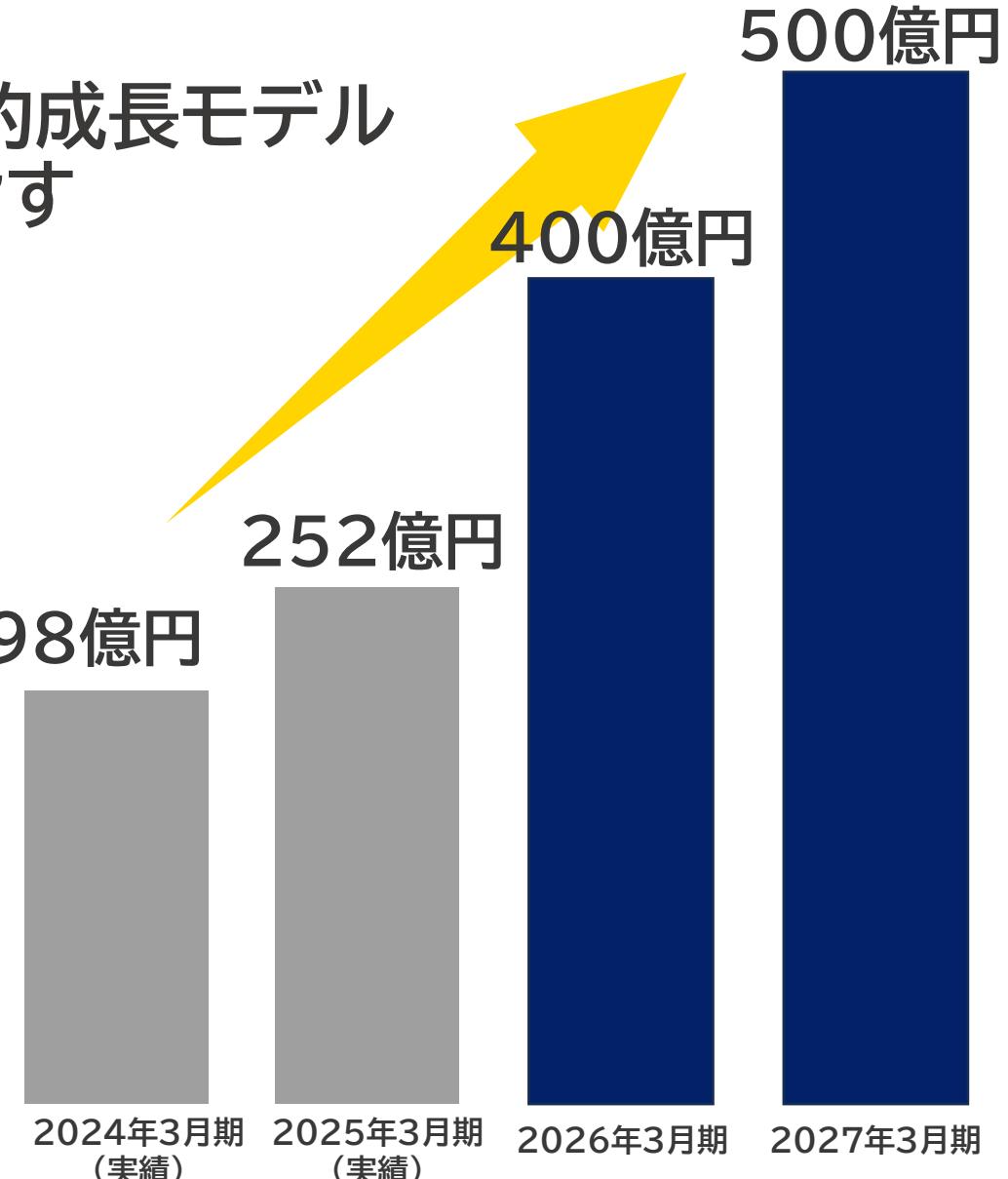
三井屋工業およびアペックスの実例



当社が日本の中堅・中小製造業の持続的成長モデルとなるべく連結売上高500億円を目指す

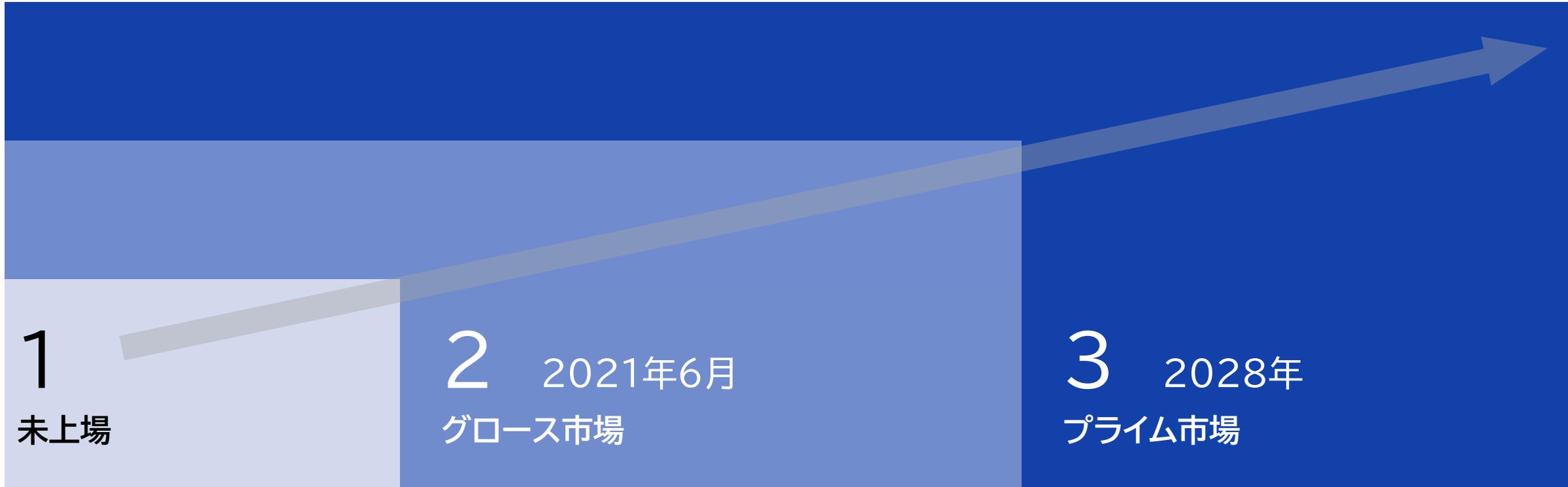
セレンディップ5つの成長戦略

1. 非連続的な成長を実現する
事業承継M&A
2. 成長する世界市場に挑戦する
海外進出
3. 新しい価値創造に挑戦する
高付加価値領域、脱炭素・EV化
4. 製造現場の生産性を劇的に向上する
フューチャーファクトリー
5. 中小・中堅企業が規模の経済を獲得する
ホールディングスの企画機能強化



プライム上場へのロードマップ

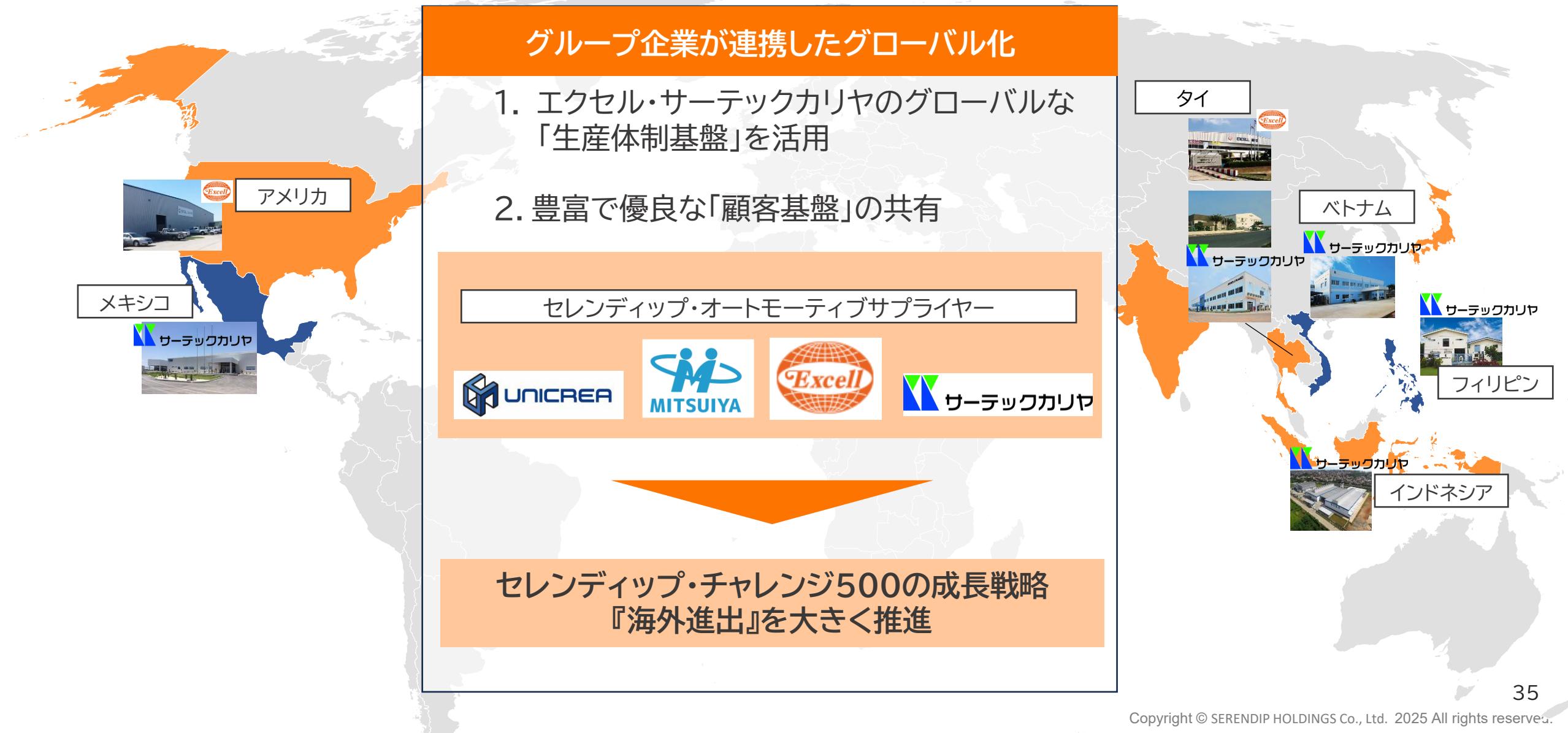
日本の中堅・中小製造業の事業承継と経営革新を加速度的に促進するために、社会的インパクトを与えられる企業体への進化



- 監査等委員会設置会社への移行
- プライム上場準備室の設置
- コーポレートサイトのリニューアル

時価総額300億円の達成

海外拠点を持つエクセル・サーテックカリヤの参加により、当社のグローバル化が一気に加速



エクイティファイナンスの優先順位

- 複数のM&Aファイナンススキームの組み合わせにより、**自己資金の流出を最小化**
- 株価の希薄化を抑えるため、エクイティファイナンスの実施を劣後

投資資源の調達方針

有利子負債+自己株式活用

- 銀行借入・メザニン・自己株式活用を組み合わせ、M&A投資の必要資金に対応する柔軟な資金戦略



CMS(キャッシュ・マネジメント・システム)

- グループ内現預金を効率活用し**投資資金余力を創出**

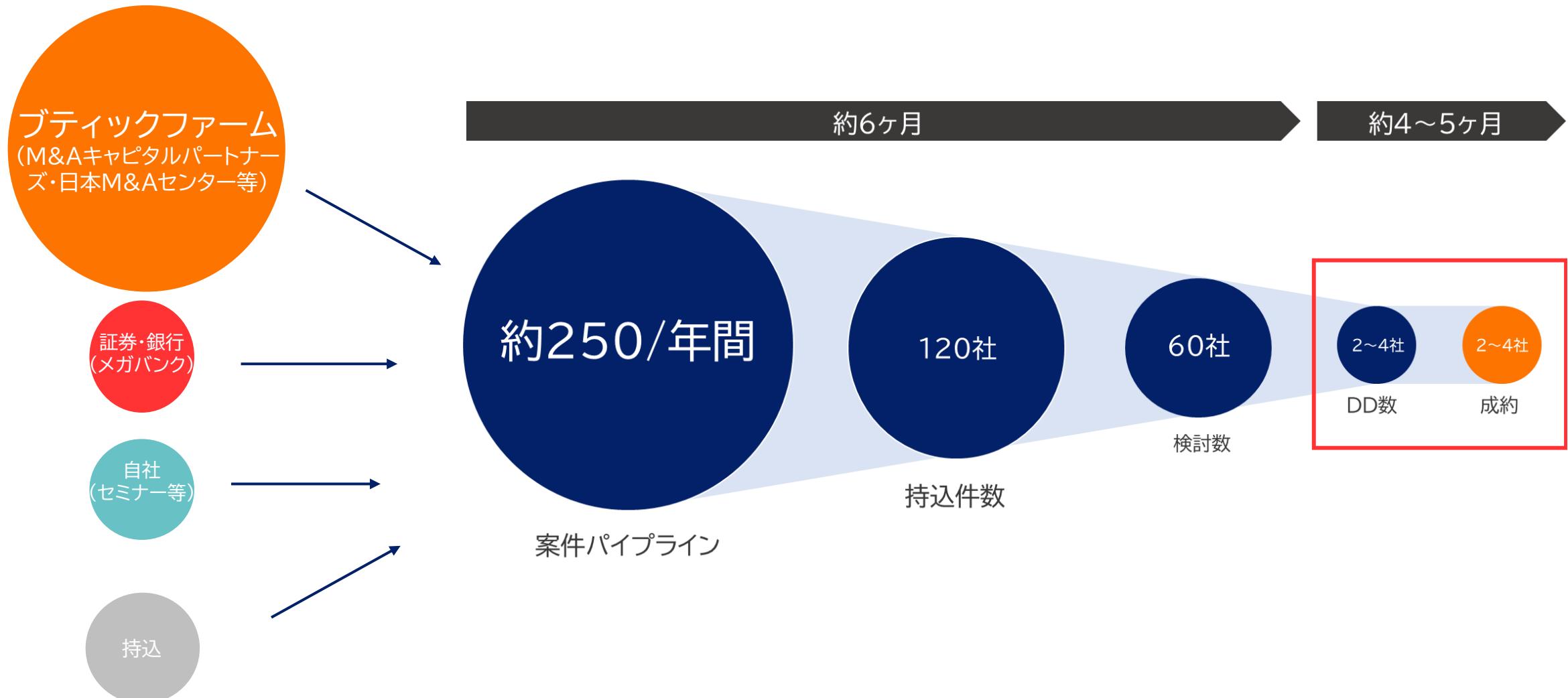


エクイティ

- 株価水準や市場動向、財務状況を踏まえ、投資によるEPS向上を前提に、資本調達も含めた最適な選択肢を検討

M&A案件数の推移

- デューデリジェンス(DD)段階ではビジネスを重視しており、M&A候補先と中期計画を共同作成することで、統合後の戦略を明確にしている



本資料に関する免責事項

本資料には、当社又は当社グループに関する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づき、本資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものであり、一定の前提(仮定)の下になされています。これらの記述又は前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、又は将来実現しないという可能性があります。

また、本資料に記載されている当社及び当社グループ以外の企業等に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

Contact Us



<https://www.serendip-c.com/>



愛知県名古屋市中区錦 1-5-11
名古屋伊藤忠ビル

